

考えに幅ができた

斉藤 律子さん
主婦 富士見台3(58歳)



私は5年ぐらい前から、ボランティアグループの「針の会」という仲間に加わりました。

1週間に1度老人ホーム駿河荘でひとり暮らし老人に配達する食事の盛り付けを手伝い、月に1、2回精神薄弱者小規模授産所の市民ふれあいバンクに出かけて古着の整理をし

ています。

最初は人に勧められるままに始めましたが、障害者やお年寄りとおふれ合うにつれ、自分自身の考えに幅が出てきたように思います。「私でも少しは社会の役に立っているのだな」と思うと、お金では買えない充実感があります。

「私はボランティアをしています」なんて構えないで、他のボランティアの人と、楽しみながらやるのが長続きの秘訣です。

紙芝居で地域の輪

金刺 美津子さん
主婦 松本(42歳)

松本の観音まつり、8月9日がやってきました。夜7時、狭いながらも境内は老若男女で一杯。今日の呼びもの(?)は紙芝居「松本のお観音さん」です。読むのは6年生の女子二人。軽トラックを利用しての舞台に、小さな子供たちは我先にかぶりついて目を輝かせて見入る。「思わず身を乗り出して見たよ」と笑顔一杯の



老人たち。終わったときには拍手が鳴り響いていました。

この地の老人に由来を聞かせてもらい、文章にした私。紙芝居作りの経験者の援助と助力、松本文庫(家庭文庫)の人たち、子供会の母親、そして見てくれた地域の人たち。

みんなの力を結集して共通の場を得た喜びは大きい。これも広い意味のボランティア活動の一端と考えます。

とりわけ美術を勉強しているわけではない。中体連まではテニスの選手として活躍し北中を地区準優勝に導いたというから恐れ入る。そして、夏休みの宿題として提出した作品が見事市長賞。「小四のときから毎年出品してきたけど、今回が一番うまくできた」とは本人の弁。過去に教育長賞も受賞している。



今回の題材を決めたという。地道な努力を怠らないタイプでもある。来年は進学。美術のことは特に意識していないが、機会があれば高校でも統計図表に挑戦したいと考えている。

受賞の感想を「照れくさかった」という笑顔には、青春のシンボルが花ざかり。実に屈託がなかった。

受賞作品は、世界各国の輸出入の割合とその変化を世界地図と円グラフなどを利用して表現したもの。毎日、テレビニュースを必ず見、新聞のスクラップを続ける過程から「日本とアメリカ、ヨーロッパの貿易摩擦が話題となっているのだから」



市内小中学校統計図表コンクールで市長賞を受賞

やま だ ひろ ゆき

山田裕之さん

吉原北中3年生